

おはようございます。

校長先生の声は、みなさんの心に届いていますか？

前回の夢をあきらめないというお話しで、みなさんの夢を聞いたところ、たくさんのお友だちが自分の夢をつぶやいてくれました。ありがとうございます。ユーチューバーになりたい、アニメの世界に入りたい、ケーキ屋さんをやりたいなど、みなさんの夢、逃げなければきっとかないますよ。

さて、このあいだまで、オリンピックが行われていました。テレビなどで観た人も多いと思います。皆さんはどんな種目が思い出に残っていますか？少し周りの人と聞き合ってみてください。

校長先生はカーリングの競技をよく見ていました。というのも、選手の声がマイクで拾われていて、「ナイスー」などの試合中の声がよく聞こえていたので、見るだけでも、まるでカーリングチームの一員になったかのように、楽しむことができたからです。

また、みなさんは、スポーツやゲームをチームで戦っているで、味方が失敗したときにどんな声をかけていますか。「なんでミスってんねん！」など味方を責めたりしていませんか。

カーリングの選手はそこらへんもすばらしく、最後は氷の状態に影響されますので、大変失敗も多いスポーツなのですが、そのときのフォローの声かけもとても素敵で、大失敗した選手に「これはこれで新しい技！」となぐさめつつ、チームが悪い雰囲気にならないような言葉をかけていました。好きで失敗している選手などいないので、失敗したあとにこんな優しい言葉をかけてもらおうと、ほっとしますよね。

そして、校長先生がカーリングは素敵だなあと思うもう一つの理由が、敷津のみんなが学習

している様子とよく似ているからなんです。4人でいろいろ考えながら楽しみ、もしも失敗したときには、互いにフォローし合って進めていくというのは、皆さんの教室の風景ととても似ていて素敵だなあと思ったからです。

そんなカーリングの選手が、どうして銀メダルをとれるほど強くなったのですかという質問に、こんな答えが返ってきました。

吉田知那美という選手ですが「私たちの強さは、強くあろうとしないっていうこと。弱さ全開で、私たちは弱さをしっかりと情報交換し合って、理解しているからこそ助け合うことができるので。」と言っていました。

また、失敗しても明るいですねという質問に、鈴木夕湖選手は「やらかしたことに對して、怒る人はいないですよ。みんなやらかすから。」と笑って答えていました。

そして、小さい時から天才と呼ばれていながらも、前回のオリンピックで銅メダルをとった以降なかなか結果が出せなかった藤澤さつき選手は「この4年間で考え方が変わりました。「自分の弱いところを受け止めよう」「弱くても情けなくてもカッコ悪くても勝つ方法がある」と思えるようになった」と言っていました。

誰しも、いいところばかりではなく、弱いところもあります。それを隠さず、弱いところと向き合って、みんなと一緒に助け合っていくことが大切だということを、カーリングの選手は教えてくれました。

皆さんは、どんな弱さがありますか？忘れ物が多い、時間に遅れやすい、秘密が守れないなど、色んな弱さがあると思います。よかったら、校長室前のボードにつぶやいてみてください。

これで校長先生のお話を終わります。最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。